



領収書データ化サービス

オペレーションのローコスト化を実現するには、「手を動かさず」に処理できる部分を増やすのが一番の近道。freeeの「領収書データ化サービス」なら、これまで手入力していた領収書の時間をグンと削減。自動化がなかなか進まない顧問先対策にもおすすめ。

★領収書の束をいちいち入力しなくていい

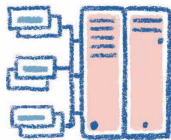
★あらかじめ「自動で経理」のルール設定をしておけば、

データ化完了時点でおよそ8割の作業が終了!

大量の領収書の束



データになる



便利!



freeeの学習コストと手入力の時間を回避!

会計freeeの一番の特色は、インターネットバンキングやクレジットカードなどの入出金情報を自動で取り込む「自動で経理」だろう。口座やカードを同期すると情報が取り込まれ、自動で勘定科目を推測し、仕訳を作成してくれるという機能だ。あとは、その仕訳が合っているかどうかを確認し、「登録」ボタンを押すだけ。面倒な入力はほぼ必要なくなるうえ、AIによる学習機能で入力をどんどん省略していけるという画期的な機能である。

しかし、まだインターネットバンキングを導入していなかったり、現金払いの領収書が多という場合、この「自動で経理」だけではうまく機能しない。これまでそういうケースでは、

Excelで明細をデータ化して「自動で経理」にインポートするか、領収書をスキャンしてfreeeに取り込む「連続取引登録」を使うなど、別の方法で処理する必要があった。

やり方さえ覚えてしまえばそれほど手間がかかるわけではないが、そのときどきで変則的な操作をしたり、覚える操作が複数になるのはちょっと面倒……。そんなときにおすすめなのが、3月末から段階的に提供を開始していく「領収書データ化サービス」だ。サービス開発担当者の1人、梅田裕介はこう語る。

「freeeというのは、使いさえマスターしていただければ、今の機能だけでも十分に使い勝手がいいソフトだと思っています。ただ、このケースは「自動で経理」、このケースは「連続取引登録」、このケースはExcelをインポート……と、これまでの会計ソフトと操作が異なるぶん、

1から学習しなければいけないという側面があるのも事実。本当ならもっと効率のよいやり方があるのに、学習コストが障壁になって、非効率的な使い方をしてしまっているというケースも耳にします。領収書データ化サービスは、その学習コストを減らして、freeeがもっとも力を発揮できる「自動で経理」の世界を体験していただくための機能。会計の知識さえあれば誰でも簡単に使えて、価値を感じていただけるサービスです」

「自動で経理」をもっともスムーズに使いこなすためには、インターネットバンキングやクレジットカードとの同期が不可欠。そのハードルを下げ、「自動で経理」を便利に使っていただきたいというのが「領収書データ化サービス」への想いだ。すでにfreeeでは同じ理念で、「通帳データ化サービス」も昨年8月から提供している。

「このサービスを使っていたら、まるでインターネットバンキングを使っているように通帳や領収書が電子化されます。あとはそれを処理していくだけ。インターネットバンキング連携の疑似体験をしていただき、freeeの便利さを気軽に体感してもらえたら嬉しいです」と語るのは、もう1人の担当者、金子奈々恵だ。

データを取り込んだ瞬間に8~9割の仕訳処理が完了

サービスの使い勝手もどんどんバージョンアップしていく予定。すでにリリースしている「通帳データ化サービス」は、現状では別フォームで申し込みをする形式なのだが、「領収書データ化サービス」のリリースとともに、freee画面から直接申し込める形に変わる。

具体的な使い方というところ、freeeにログインし、「口座」メニューから「通帳・領収書のデータ化依頼」を選択、案内に沿って領収書の画像をアップロードする。freeeではその領収書をデータ化し、「自動で経理」に取り込める状態までを下準備。

あとは、皆さんにそのデータを仕訳処理していただければ完了だ。処理した時点でデータが証拠と紐付くので、あとから確認するのも簡単。ちなみに、「スキャンするの面倒だ」という方には、4月からスキャンサービスも段階的に実装されることになっている。

領収書の処理は、事務所によってさまざまなルールがあるうえ、状況や場合によっても判断が変わってくる。同じ支払先でも、実際費になることもあれば、会議費になることもあり、そこはまだAIには100%は任せられない部分だ。「領収書データ化サービス」は、会計事務所

会計事務所の作業手順イメージ

クライアントから領収書を受け取る

仕分ける

記帳すべきもの・記帳しないけど必要のないもの(住宅ローン控除、医療費控除等の証拠)、使わないもの(プライベートな支出)に分ける

スキャンする

4月からはスキャンサービスも段階的にスタート予定。その場合は領収書を郵送

データ化サービスを依頼する

明細化される

日付・金額・取引先がデータ化

内容を確認してfreeeに取り込む

自動で経理

の判断が必要になる手前までのステップを自動化するというイメージ。

「処理の仕方がすでに固まっているものについては、あらかじめ自動登録ルールをセットしておけるので、「自動で経理」にデータを取り込んだ瞬間に8~9割の仕訳処理が完了していることになります。残りは年に1、2回しかない取引や、特殊な処理が必要な取引を判断していただくだけ。また、すでにfreeeを使いこなしてくださっている方にとっても、手入力の手間が減らせ、より付加価値の高い業務に集中するなど、業務体制を整える施策として活用していただけます」(梅田)

さて、気になるのがお値段。残念ながら現段階では具体的な金額はまだ未確定なのだが、会計業界の報酬の低価格化が進むなかでも負担にならず、気軽にご利用いただける金額でのご提供が想定されているようだ。

「というのも、私たちはfreeeのソフト利用料で収益を上げるビジネスモデルなので、このサービスで収益を上げることよりも、サービスを通じてソフトの利用者が増えることを重視しているんです。正直なところ、このサービスは徐々に縮小していくくらいが理想的ではないかと思っています。なぜなら、通帳データ化の部分はネットバンキングと同期し、領収書データ化の部分は現金による都度払いではなく、すべてカード払いに切り替えてクレカとの同期ができれば、このサービスに依存せずとも、より便利で自動化された経理体制を構築できるからです。でも、今はまだその過渡期。「自動で経理」を今すぐ便利に使っていただくためのツールとして、皆さんのお役に立てれば良いと考えています」(梅田)